

平成22年度 社会福祉法人 多摩同胞会事業報告要約総括

	法 人 事 務 局	高 齢 者 施 設					母 子 施 設		
		泉 苑	あさひ苑	緑 苑	かんだ連雀	岩本町ほほえみプラザ	きずな	しらとり	たち
平成22年度 事業計画 重点ポイント	1.長期的な財務計画作成を作成する 2.人材育成(キャリアパス)と適正配置計画を作成する(22-23年度) 3.施設整備(22-23年度)を実施 4.業務管理体制の整備を図る 5.家族支援システムを浸透させる	1.事業ごとの責任体制、職員個々の業務を明確化 2.職員のスキルアップ 3.法人理念を意識し、個別ケア自立支援、安全で穏やかな生活環境を提供する 4.感染対策の徹底、転倒等生活リスクには家族と充分話し合う 5.大規模修繕、耐震化工事は安全対策 6.地域包括支援センターの基本業務の確実な遂行 7.防災・防犯対策を強化する	1.長期的な組織作りと人材の育成に取り組む 2.サービスの質の向上に取り組む 3.家族支援システムでの正確な記録。第3者にわかりやすいサービス 4.法人理念のもと、利用者の個々にあった対応、生活環境の整備等個別対応をめざす 5.2階、3階フロア改修工事により、生活空間の検討を行う 6.防災訓練を徹底し、災害に備える	緑苑施設整備(特養増築計画)の1年目 1.特養増設計画の実施にむけ利用者の安全確保と開設後の運営方針の整理 2.人材確保と育成に努める 3.家族支援システム定着と地域との連携を図る 4.記録の充実を図る 5.情報共有と責任体制の明確化を図る 6.防災対策を強化する	1.各事業連携し、相談からサービスの提供までの一連の支援を実施する 2.業務管理体制を整備し、法令を遵守する 3.職員の育成・定着を構築する 4.地域との連携を図る 5.事業を検証する 6.防災・防犯対策強化に努める 7.単年度経常収支の黒字化	1.総合相談の窓口からかんだ連雀、地域包括支援センターとの情報を共有する 2.組織体制を整備する 3.家族支援システムの習熟に努める 4.エコ活動を推進する 5.新規事業の円滑運営 6.防災訓練を充実させる 7.医療ニーズを検討する 8.単年度経常収支の黒字化	1.安心安全な場を提供する 2.利用者に寄り添った支援 3.基本的な生活の向上支援 4.資源を大切に 5.自立支援システムの活用と支援記録を充実させる 6.職員の育成を図る 7.23年度に向けた準備 8.家族支援システム浸透 9.5ヵ年計画と施設整備計画策定	1.安心安全な生活の場 防犯、防災を徹底する 2.職員の連携を図る 3.法改正対応による利用者支援 4.土日、夜間体制の充実 5.子ども家庭支援センター事業検討 6.「あるべき施設」を検討する 7.自立支援計画に沿った利用者支援。計画の定期的見直しを図る 8.計画的な建物保守管理	1.安心安全な場を提供する 2.府中市子育ての中核施設として情報を把握、発信する 3.しらとりとの連携を強化する 4.職員のスキルアップ 組織力強化を図る 5.新たな事業展開に向けた検討を行う
平成22年度 事業執行状況	<b>1.管理</b> ①理事会の開催 ②理事改選 ③定款変更 ④あさひ苑指定管理者として決定 ⑤きずな民間移譲への準備 ⑥諸規程整備 ⑦人事制度委員会・財務委員会の開催 ⑧事業監査、経理監査の実施  <b>2.財務</b> ①集約業務の遂行 ②本部と施設との役割分担 ③基金設立 ④経理規程を遵守した業者契約 ⑤法令を遵守した経理処理  <b>3.庶務</b> ①労働契約の合意の推進 ②人材確保に取り組む ③キャリアプランの策定 ④季刊誌定期発行 ⑤ホームページ随時更新 ⑥サーバー室の環境強化 ⑦システム保守体制の基本整備 ⑧システム管理体制の再整理 ⑨家族支援システムの定着推進 ⑩サイボウズ、勤怠システム活用推進  <b>4.事業推進</b> ①業務管理体制遂行サポート ②事業管理責任者へのサポート ③中間管理職業務遂行のサポート ④施設別サポート ⑤事業計画遂行状況把握 ⑥研修の開催 ⑦サービス評価と事業監査実施 ⑧各事業推進会議、横断連絡会連 ⑨職員のメンタル面へ助言	<b>1. 運営管理</b> ①集約業務による事務負担の軽減 ②未集金回収 ③施設整備積立金積み立て ④家族支援システムの活用 ⑤大規模改修、耐震化工事検討 ⑥経理規程を遵守した業者選定 ⑦不要品整理と清掃実施  <b>2. 包括支援センター</b> ①相談件数4522件 ②虐待、権利擁護相談増加 ③個別訪問・実態把握 ④ネットワーク強化 ⑤適切な予防プラン作成  <b>3.居宅支援</b> ①生活全般の情報把握 ②期限管理不十分 ③チーム力向上努力不足  <b>4. デイ</b> ①重度化進行 ②実績減、入浴者減 ③ニーズ多様化  <b>5. 通所外</b> ①推進事業利用者増が課題 ②KCとの連携強化  <b>6. ホーム</b> ①長期入院で退所増 ②研究会で目的意識を明確化 ③事故件数増加 ④福祉機器導入のための研修開催  <b>7. ショート</b> ①ニーズに対応 ②住環境整備  <b>8. 看護</b> ①急性増悪ケース俊 ②通院の半数が歯科受診 ③感染症予防推進  <b>9. 訓練</b> ①個別機能訓練実施計画書作成 ②施設内研修企画実施  <b>10. 食事</b> ①ソフト食研究 ②計画生産定着	<b>1. 運営管理</b> ①計画的な予算執行 ②経理規程遵守 ③就業規則の遵守 ④評価受け課題明確化 ⑤ボランティアのべ2000名 ⑥実習生のべ240名  <b>2. 包括支援センター</b> ①相談件数4047件 ②虐待、権利擁護実態把握 ③災害時用援護事業初年度民生委員と連携  <b>3.居宅支援</b> ①あさひ苑包括、緑苑在支との連携 ②困難ケース積極的受入  <b>4. デイ</b> ①3年計画作成 ②担当者会議の見直し ③認知症ケア ④リスク対象者の把握  <b>5. 訪問介護</b> ①利用者減 ②困難ケース積極的受入  <b>6. ホーム</b> ①入退所者半減 ②修繕工事により環境改善 ③家族へアンケート実施し個別援助につなげる ④権利擁護、虐待研修へ参加  <b>7. ショート</b> ①稼働率増 ②緊急利用の長期化  <b>8. 看護</b> ①医療対応リスク利用者増 ②研修により感染予防 ③業務マニュアルの整備  <b>9. 訓練</b> ①個別機能訓練実施計画書作成 ②福祉機器研究会と連携  <b>10. 食事</b> ①フロア配膳実施 ②食改善事業	<b>1. 運営管理</b> ①集約業務による効率化促進 ②法令遵守した経理処理 ③コストダウン遂行 ④勤怠システム活用 ⑤ボランティアとの連携 ⑥部署担当の研修実施 ⑦居心地のよい空間づくり  <b>2. 在宅支援センター</b> ①地域とのより関係づくり ②在宅高齢者の実態把握 ③緑苑応援隊活動充実のための検討 ④施設職員との情報共有  <b>3. 地域デイ</b> ①プログラム検討と実施 ②高齢者への情報提供 ③施設利用者との交流  <b>4. 養護</b> ①高齢虚弱化 ②支援と介護のサポート ③利用者同士の支えあい支援 ④記録徹底で支援標準化 ⑤養護の存在意義考察 ⑥地域との関係性配慮  <b>5. ホーム(特養)</b> ①滞在年数短縮傾向 ②ケアプランに基づくケア不十分 ③身辺の環境整備に努める ④介護力向上が課題  <b>6. 自立ショート</b> ①稼働率ふるわず ②施設生活の体験利用増  <b>7. 看護</b> ①職員健康管理に課題 ②看とり増 ③予防対策効果あり  <b>8. 訓練</b> ①個別機能訓練実施計画書作成 ②自助具、補助具に管理  <b>9. 食事</b> ①震災対応は職員の自信に ②他部署との連携	<b>1. 運営管理</b> ①施設と本部業務の役割明確化 ②本部との情報共有 ③訪問介護事業運営開始 ④連雀の特色を活かしたサービス提供 ⑤部署間の連携によるサービス向上  <b>2. 包括支援センター</b> ①高リスク独居高齢者の見守り ②虐待防止判断基準は課題 ③特定高齢者フォローアップ事業実施 ④医療介護連携チームケアファイル作成 ⑤医療情報キット配布  <b>3.居宅支援</b> ①部署間情報共有 ②丁寧な説明を心がける ③医療との連携 ④楽習会開催  <b>4. デイ</b> ①高齢化、重度化 ②稼働率低下 ③ケアマネ、他事業所との情報共有 ④人材育成不十分  <b>5. 訪問介護</b> ①11月開設 ②あんしんセンター・居宅との連携 ③生活実態に即した支援実施  <b>5. ホーム</b> ①個別援助遂行 ②職員体制が不安定 ③担当者会議によるケアプラン作成  <b>6. ショート</b> ①個別援助計画書式見直し ②デイサービスとの情報共有  <b>7. 看護</b> ①看とり希望者増 ②研修による感染予防対策  <b>8. 食事</b> ①ムース食の提供 ②レンジ収集課題 ③真空調理法への移行実施	<b>1. 運営管理</b> ①本部との連携 ②委員会活動によるサービス向上 ③訪問食事サービス開始 ④あんしんセンターとの連携  <b>2. 区民施設</b> ①環境整備 ②地域住民の交流の場 ③介護予防、防災等の拠点として周知  <b>3. デイ</b> ①予防利用者・認知症利用者増 ②認知症研修開催 ③モニタリング、アセスメント遂行  <b>4. 健康回復支援ショート</b> ①精神的課題ある利用者増 ②区唯一の受入として機能 ③リピーター利用増  <b>5. ケアハウス</b> ①2人室1年間空き室 ②介護予防教室への参加増 ③ケアマネ、他事業所との情報共有 ④個別学習支援 ⑤一緒に考え行事実施  <b>6. グループホーム</b> ①傾聴に努力 ②サービス担当者会議による援助見直し  <b>7. ショート</b> ①短期入所生活介護計画に基づいた支援 ②利用者の満足度を上げるサービス ③サービスの標準化を推進  <b>8. 看護</b> ①他部署との連携 ②感染症予防対策 ③職員定着が課題  <b>9. 食事</b> ①2月訪問食事開始 ②郷土料理の日実施 ③真空調理、計画生産実施  <b>10.総合相談</b> ①要支援高齢者の把握 ②総合相談業務の明確化は課題	<b>1. 運営管理</b> ①関係機関への情報提供、連携 ②移譲について東京都との調整 ③エコ活動実施 ④毎月懇談会を実施 ⑤毎月防災訓練、消化訓練実施 ⑥居室安全点検実施 ⑦家族支援システムデータ入力 ⑧コスト管理、業務省力化遂行  <b>2. 母親に対する支援</b> ①母子自立支援員との面接 ②6割の就労 ③心理担当職員による心のケア ④就労支援、資格取得支援 ⑤気持ちを支える場の提供 ⑥自然を大切に  <b>3. 学童に対する支援</b> ①定期的な面接 ②自然環境を活かしたあそび ③心理担当職員による心のケア ④個別学習支援 ⑤一緒に考え行事実施  <b>4. 乳幼児に対する支援</b> ①ニーズに合わせた保育支援 ②保育士と心理担当職員の連携 ③好奇心に沿った保育 ④母親の相談に応じる ⑤見守りと声かけ  <b>5. 地域活動</b> ①地域行事に参加 ②地域関係機関との連携 ③緊急一時保護を都内全域対象  <b>6. 食事</b> ①旬の食材による味覚形成 ②衛生管理徹底 ③アレルギーの代替食対応  <b>7. 食事</b> ①季節の食材、新鮮な食材 ②食事を通したマナー ③毎月レシピ紹介  <b>8. サービス事業</b> ①トワイライト減少 ②ショートステイはリピーター利用 ③緊急一時保護増	<b>1. 運営管理</b> ①府中市の子育て支援中核施設として浸透、定着 ②防災リスクマネジメント対応策検討 ③実習生・中高生職場体験受入 ④利用者アンケート実施 ⑤入職時に個人情報研修 ⑥ボランティア169名受入 ⑦子育て交流会開催  <b>2. 総合相談</b> ①市相談員との協議により対応 ②新規相談751件 ③虐待相談3割 ④身体測定等で関係性  <b>3. ひろば事業</b> ①登録総数44000名。市外60%。 ②当日カード発行で入館 ③3歳までが98% ④スポットタイム実施  <b>4. リフレッシュ保育</b> ①新規登録421名。利用者へのべ1805名 ②保護者の気持ちに共感 ③保育士スキルアップ  <b>5. ファミリーサポート</b> ①新規登録401名。会員計1255名 ②年間活動5938件。 ヘアリング155件。 ③提供会員のスキルアップ講座 ④定例会11回、交流会2回開催 ⑤広報活動実施	
平成23年度 事業計画 重点ポイント	1.職員の育成 福祉職のプロを育成する 未来につながる中堅層の意図的育成 2.サービス向上 法人としてのサービスの平準化 地域拠点としての施設機能強化 家族支援システムの定着 3.業務管理体制推進 適正な人員配置に基づく組織づくり それぞれが責任をもった管理体制の徹底 4.施設基盤の整備 制度改革がすすむの中で社会福祉法人としての基盤強化する。 2000年以降新たな環境を乗り越え ために 第1期 課題整理と基本的対応 (～2004年) 第2期 具体的な体制整備 (2005年～2010年) 法人全体でとりくんできた2011年 からの当面3ヵ年を第3期と位置づけ 第2期の取り組みを定着、浸透	1. 事業計画表に沿った、着実な事業運営と法令遵守 2. 安全な大規模改修および耐震化工事の実施 3. 組織的な事業運営 ①組織及び会議図に沿った提案、議論、決定の流れの確立 ②総合力の強化による効率的運営 4. サービスセンターの事業継続 地域からの期待に応えられる泉苑の特性の見直し、通所・入浴・送迎・推進担当の一体的業務体制の構築 5. 継続的な取り組みの一層の充実 ①個別性の重視(ケア・生活両面) ②福祉機器の効果的な活用 ③死生観についてご家族も巻き込んだ学びと議論 ④地域を支える施設としての日々の実践(包括を入りに施設全体で) ⑤適切なリスク管理 ⑥職員のスキルアップ、実践研修の充実と契約・非常勤職員研修 6. 有効な防災訓練の実施・防災意識確立 7. 施設環境への意識化	1.組織力の強化: ・直接介護職員が向上心ややりがい が持てるように育成システムを構築す る。 ・職員全体で利用者処遇に関するマ ナー向上に向けた取り組みを行う。 ・経験ある職員の今まで培った事例が 生かされるように研修などを実施す る。 2.サービス向上: 施設全体で法人の理念のもと、利用 者の個々に合った対応に取り組む。 過ごし方や生活環境を整える。 ・ホームは床の改修工事によって改善 された住環境が生かされるような、 ユニットの介護をさらに推進する。住 み心地や生活空間の検討を行う。 ・センターは3ヵ年計画の2年目とし、 認知症高齢者に対する介護技術向 上を目指す。 3.健全な運営: サービスの質の向上に取り組める組 織作りと業務見直しをはかり、各事 業ごとに健全な運営がはかれるよう に取り組んで行く。	1.施設整備 利用者の安全な生活確保と増設 後の事業運営の具体化に取り組む。 ・開設準備担当を配置する。 ・人材の確保に取り組む ・関係機関との連携を基に入所対象 者を選考 ・フロア単位の生活援助を 組み立てられる職員の育成 (内外実習研修への参加) ・既存施設の整備 2.福祉拠点としての施設づくり ・福祉拠点となる施設づくりにむけ連 携 ・ボランティアの受け入れ ・1階ホールの活用 ・神田地区総合相談の拠点 事業をさまざまな角度から検証す る。 ・センターは3ヵ年計画の2年目とし、 認知症高齢者に対する介護技術向 上を目指す。 3.健全な運営: (担当地区変更、予防プラン引継ぎ) 4.人材育成と職員連携 ・気づいて実行できる人 ・定常業務が確実に行える職員 ・職員間の情報共有	1.相談から在宅へ施設サービスまで 支援する ・訪問系サービスの定着(事業推進) 2.会議・神田合同会議を基盤とする) 業務管理体制を整備し、法令を遵 守する 3.職員が主体的に成長していけるよ うな育成の仕組みを構築する 4.地域の力を活用し地域 における連雀の役割を認識する ・ボランティアの受け入れ ・1階ホールの活用 ・神田地区総合相談の拠点 事業をさまざまな角度から検証す る ①サービス自主評価(12月) ②第三者評価受審(10月) ③事業情報公表制度 ④家族懇談会(年2回)および 利用者・家族の声受付カード ⑤かんだ連雀運営協議会(年3回) 防犯・防災対策を強化する	1.情報の共有・連携を深める ①朝礼・夕礼など利用者、事業情報 の共有を進める ②連雀との連携を通し神田事業所と して、在宅から施設サービスまでの支 援を行う 2.食事サービスを充実させる ・訪問食事サービス、食会会などを 通して食の充実・見守りを行う 3.防災意識の向上を図る ・高層ビルに対応した防災訓練を実 施する 4.収支バランスを改善する ・稼働率の向上を図る 5.研修・委員会などを通した職員育成 をする 6.情報共有 7.計画的な建物の保守管理を実施す る。 8.今後の子育て支援や母子生活支援 施設についてのあるべき姿を検討す る。	1. サービス向上と安定的な経営 ①朝礼・夕礼など利用者、事業情報 の共有を進める ②連雀との連携を通し神田事業所と して、在宅から施設サービスまでの支 援を行う 2.食事サービスを充実させる ・訪問食事サービス、食会会などを 通して食の充実・見守りを行う 3.防災意識の向上を図る ・高層ビルに対応した防災訓練を実 施する 4.収支バランスを改善する ・稼働率の向上を図る 5.研修・委員会などを通した職員育成 をする 6.情報共有 7.計画的な建物の保守管理を実施す る。 8.今後の子育て支援や母子生活支援 施設についてのあるべき姿を検討す る。	1. 法律改正や制度に対応し、法人の 理念に沿い、自らの使命を果たすた め、研修を行う。 2.利用者が安全・安心に生活できる 場を提供する。 3.多様な課題を抱えた利用者の 現状にあった「あるべき施設」 の検討をおこなう。 4.利用者への支援の充実を図るた め、「報告・連絡・相談」の徹底を図 る。 5.利用者支援をチームケアで行い、 職員間の支援ノウハウを継承する。 6.自立支援計画に沿った利用者支援 の確立をめざす。 7.計画的な建物の保守管理を実施す る。 8.今後の子育て支援や母子生活支援 施設についてのあるべき姿を検討す る。	1. 利用者仲間作りを支援 防災・防犯のために研修 地震に関する対応強化 2. 会計の仕組みや事業を取り巻く 制度・情勢の動向の理解を重点項 目とする。 3. サービス事業のための連携強 化、ボランティア育成、受け入れ のための基盤整備を行う。 4. 事業運営における市職員との協 働体制のさらなる充実 5. 職員が心身ともに健全に勤務で きる環境整備 6. 子育て支援の今後についてある べき姿を検討する。